

ショートコメント vol.210 (2021年7月12日)

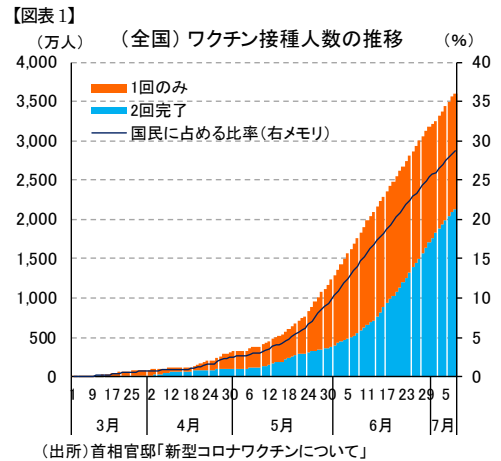
テーマ：ワクチン接種効果の発現に対する仄かな期待
～注目される年齢層別の感染状況～

●加速するワクチンの接種

新型コロナのワクチン接種の動きが加速している。直近では、供給の遅れによるペースダウンの懸念があるものの、6月以降、一気に接種が加速した。

7月12日時点で、全国で少なくとも1回の接種を受けた人が約3600万人。国民全体の比率で見ると28.7%となっている(図表1)。同じく関西でも、7月4日時点で約500万人、24.6%と順調に進んでいる。

世界的にみても、この水準は決して低いものではない。ここへきてのペースダウンは気がかりであるが、供給不足が早期に解消され、さらに接種が進むことが望まれる。加えて、早期に接種効果が出てくることになれば、景気のターニングポイントとなる期待も高い。



●高齢者による外出増の動き

そういった中、景気ウォッチャー調査では、ワクチンの接種が完了した高齢者の外出増加などが指摘され始めた(図表2)。

政府の目標は、65歳以上の高齢者に対する、7月末までの接種完了である。今のところ、多くの自治体で達成される見通しであり、すでにかかなりの数の高齢者が接種を完了した。それに伴い、百貨店などへの来店が増え始めている。

ワクチンの接種により、感染リスクを無視した行動が助長されては本末転倒であるが、許される範囲での外出については、各種店舗の売上減の緩和にもつながる。もちろん、いまだに大阪ではまん延防止等重点措置が続いており、人流の増加が歓迎できる状況ではないが、一部ではワクチン接種による変化が進みつつあることも事実である。

【図表2】 (街角景気) 関西でのワクチン接種による効果 (21年6月調査・現状判断)

業種	コメント
百貨店 (営業推進担当)	・新型コロナウイルスのワクチン接種が進むにつれて、消費マインドが回復しつつある。
旅行代理店 (従業員)	・新型コロナウイルスのワクチン接種の拡大により、東京オリンピック明けの旅行の検討が始まっている。
百貨店 (販売推進担当)	・(前略) 今月は、新型コロナウイルスのワクチン接種済みの年配客が増加傾向にあるが、緊急事態宣言中の土日の営業自粛などもあり、6月全体としては引き続き苦戦している。
スーパー (経営者)	・新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、感染者数も減るにつれて、徐々に来客数が戻ってきた。(後略)

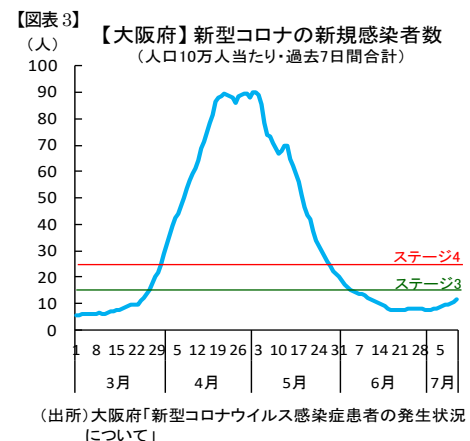
(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

●年齢層別の感染状況

加えて感染者数の推移にも、ワクチン接種の効果の予兆ともいえそうな動きがみられる。

大阪の新規感染者数については、ここへきて少し増加の兆しが出てきた(図表3)。7月12日時点で、人口10万人当たりの感染数(7日間合計)は11.3人と、いわゆるステージ2(15人未満)を維持しているが、予断は許されぬ状況といえよう。

そういった中、注目されるのは年齢別の感染数の推移である。

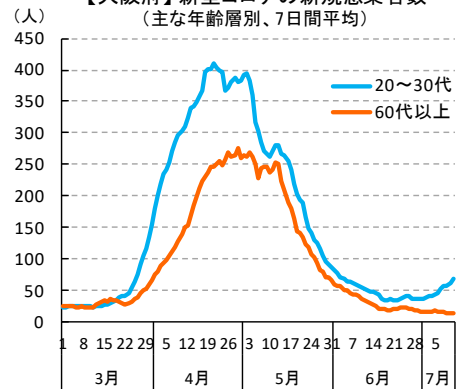


※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

20～30代と、60代以上の推移を比べると、大きく乖離していることが分かる(図表4)。この乖離の要因については、もちろん現時点での特定は難しい。特に、若年層を中心とした変異株の感染増が懸念される中、ワクチン効果が明言できる状況ではなく、府の専門家会議等での判断が待たれる。

とはいえ、仮にこのトレンドが今後も続くようであれば、一つの可能性としてワクチン効果が浮上する期待は出てくる。過度な期待は禁物であるが、感染の収束に向けた突破口がなかなか見いだせない中、明るい材料が出てきたことは確かであろう。ひとまずは、今後の年齢層別の感染状況の推移が注目される。

【図表4】 【大阪府】新型コロナの新規感染者数
(主な年齢層別、7日間平均)



(出所)大阪府「新型コロナウイルス感染症患者の発生状況について」

本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL：06-6258-8805 mail：hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。